

学校だより



市川市立平田小学校

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する そして共に幸せ～

いなほ
稲穂

学校教育目標

夢をもち、たくましく生きる
子どもの育成

No.9

令和4年7月7日

校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/hirata-sho>

さ・し・す・せ・そ・に・ありがとう！

ここ数年私は、学校教育方針に「有用感（自分を信じ、自他を励ます）」を一番に掲げています。「自己肯定感を高める」と言い換えもできます。この「自己肯定感」のベースにあるのは、「承認」ではないかと思うのです。子どもは親の持ち物ではなく、人格を持った一人の人間ですから、叱られるより認められることを望みます。また、そうすることで伸びていくものです。親自身も同じです。一生懸命頑張っているのに認められる機会が少なければ、自己肯定感の低下につながります。そういう私も家で、「ご飯を作ったり、洗濯をしたり、掃除をしたりしているうちに、あっという間に夕飯の支度。そういう毎日の繰り返しの中で、感謝や労いの言葉がなく、そうすることが当たり前と思われていると虚しくなる。何のために私はいるの？」と言われることがあり、相手の心構えや考え方を大事にして褒めたり認めたりすることの大切さを痛感します。

自己肯定感を、「長所も短所もある自分をありのままに認めて“これでいい”と思える気持ち」、あるいは、「欠点も含めて自分のことを好きと思える心」と解釈する見方がありますが、わかりやすい気がします。

また、親の自己肯定感が低いと、どうしても子ども自身も自信が持てなくなる傾向があるようです。ですから、親子(家族)で互いの長所に目を向ける練習をするのもよいかもしれません。最初はわざとらしくてもいいから相手を褒めるのです。相手の美点を見てそれを伝えることで、相手の心の中にある「宝物」を掘り起こすことにもなるのではないのでしょうか。

そこで、親子の会話では「だって」「でも」「どうせ」などという後ろ向きの言葉を避け、『さしすせそにありがとう』を大切にしたいと考えます。『さ』は「さすが!」「最高!」、『し』は「幸せ!」、『す』は「素晴らしい!」「素敵!」、『せ』は「世界一!」「センスいいね」、『そ』は「そうだね!」、『に』は「にっこり」、そして『ありがとう』は、肯定・承認のあらわれであり、うれしいひと言です。最初はなかなか使えなくても、意識して口に出しているうちに気持ちが前向きになり、自分の周りの人も自然と幸せな気持ちになっていくのではないのでしょうか。

ビジネスの世界でも相手を褒める「さ・し・す・せ・そ」のフレーズがありますが、努力や行動、結果について褒めるよりも、相手の内面を褒めることこそ、心を揺さぶりモチベーションを高める効果があるようです。

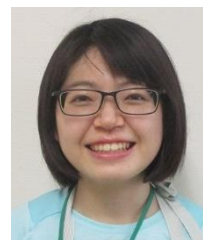
ある学級では、帰りの会で友達のよさを発表する時間を設けています。自分のよさはなかなか見つけられなくても、相手のよさに気づくことはできるものです。こうした積み重ねが自信となったりモチベーションアップになったりすると期待しています。

吹奏楽部 ソロコンサート開催

7月20日(水) 体育館にて14時～(13:30開場)

※日頃の練習の成果を発表します。参観は、本校児童及び同居家族に限ります。

混雑する場合は部員の保護者を優先します。



宮崎ちひろ栄養士
阪田栄養教諭がお休みの間、一日から給食全般の計画・準備・運営を行っています。よろしくお願ひします。

◆◆平田小児童のむし歯保有率◆◆

全学年の歯科検診を終えて、本校の「むし歯の状況」を確認すると、次のとおりでした。

令和2年度：12.9% ➡ 令和3年度：11.4% ➡ 今年度：20.7%

ちなみに、千葉県全体の児童のむし歯率は16.9% (R2) という状況です。

むし歯を生む3要素に、「歯の質」「糖質」「ミュータンス菌」が挙げられます。そして、子供がむし歯になりやすい原因をさらに大きく3つに分けています。



(1) 親から子へむし歯菌が感染する

人それぞれむし歯菌の数は違いますが、産まれてきた赤ちゃんの口の中には、実はむし歯菌はいないのです。むし歯菌の代表であるミュータンス菌は、親や祖父母から感染すると言われますが、唾液を介することが多いわけです。

(2) 歯磨きができていない

「ちゃんと磨いているはずなのに…」という言葉は耳にしますが、「磨いている」と「磨けている」は大きく違います。むし歯になりやすい場所は、奥歯の溝・歯と歯ぐきの境目・歯と歯の間です。意識してブラシの先を当てないと歯垢を落とせない場所ですから、中学年くらいまでは子ども任せにせず、少なくとも夜寝る前は膝の上に横にして、こうした部位を仕上げ磨きする習慣がほしいものです。

(3) ダラダラと間食する

砂糖をはじめとする糖質は、むし歯の原因菌であるミュータンス菌が、歯を溶かす酸を作るための材料となります。そして、同じ糖質の量でも、一度に摂取するよりダラダラ食べをする方がむし歯になりやすいそうです。唾液の働きがあっても、糖質を摂取する頻度が高ければリスクも高くなるわけです。また肥満なども心配されます。

口腔内の健康を保つためには、①歯質の強化、②正しい歯磨き、③正しい食生活が切っても切り離せない条件と言えます。“今さら”と諦めず、“今から”と気持ちを切り替えて…。

親子で過ごす時間が増える夏休みです。家にいることが自然と増えるので、やることなすこと気になり、必然的に小言を言う回数も増えるのではないかと思う方は少なくないはずです。ただ逆に、子供の自主性を伸ばし、自信を高めるチャンスととらえることもできます。

家事セラピストの村上有紀さんは、『お手伝いが自信を育む』と書いています。夏休みのはじめに、家族でお手伝い計画表の作成を提案しています。やってみたい家事を家族で決めて一覧表にすることでモチベーションを維持しようというものです。子供に家事を任せると、やり方が雑だったりモヤモヤしたりすることもありますが、「やってみた」「挑戦した」という事実を目を向けることが大切です。やり方を押しついたりダメ出ししたりすることなく、一緒にできることを増やして、「家族のために役に立っている」という所属感や自信が生まれることを期待したいものです。

また、世田谷小教諭の沼田晶弘さんは、『まず親が変わることが必要』と語ります。例えば、靴下を脱ぎ散らかす子供に、きちんと洗濯かごに入れるよう小言を言いながらも、結局は親が拾って洗濯するという場面があったとします。これを繰り返すことで、親の小言を大人しく聞いてその場をやり過ごせば、親がやってくれるものだと誤認識を定着させてしまいます。一方、親が手を出さずにいれば、困った状態を経験することになり、他人事では済まなくなつて行動が変わるチャンスを生みます。時間がかり難しいことですが、子供が何かにチャレンジしようとするときは、「やったらできる」という自己効力感に満ち溢れた状態です。よって、必ずしも親が望んでいた行動にならなかつたとしても、できるだけ後押しをして、自分の力でやったことを一緒に喜ぶことが大事であると付け加えています。

子供は空想の天才。勉強だけでなく、一緒に料理をしたりモノづくりをしたり本を読んだりしながら、子供と向き合い、見守り、相互理解を深めていけたら最高です。そして、それがさらなるやる気やポテンシャルを引き出すことにつながるかもしれません。